

令和2年度学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

京丹波町立竹野小学校

令和2年度学校経営方針(中期経営目標)	前年度の主な成果○と課題●	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	評価	
<p>「夢と希望を持ち、たくましく生きる、“若竹っ子”の育成」</p> <p>かしこい子 「質の高い学力を身に付けた子」</p> <p>やさしい子 「友達を大切に作る心、素直な心を身に付けた子」</p> <p>たくましい子 「心身ともに健康で安全に生きぬく実践力を身に付けた子」</p> <p>※目標達成に向かって、学校と地域が連携・協働できる体制づくりを目指す。</p> <p>《中期経営目標》（令和5年度まで）</p> <p>(1) 学習の目的を理解し、主体的に学ぶ児童の育成 (2) 自分に自信をもち、互いの違いを認め合い、よりよい人間関係を築ける児童の育成 (3) 心身ともにたくましく、健やかな児童の育成 (4) 特別支援教育を要とした全教育活動の推進 (5) 「地域とともに歩む学校」の実現 (6) 「めざす児童像」～歌声響き、笑顔輝く若竹っ子への継承 (7) 教職員の働き方改革推進による教育の質の向上</p>	<p>(1) 質の高い学力の育成 ○「学びを育む京丹波町メソッド」に沿った授業展開で、全学年が重点教科である国語科の授業公開をし、同じ視点で授業改善を図った。</p> <p>●発表力、練り合う力、対話力を高めていく必要がある。</p> <p>(2) 特別支援教育 ○校内教育支援委員会を随時開催し、児童の実態交流をしながら個に応じた指導の充実を図ることができた。</p> <p>●特別支援教育について、教職員研修を充実させながら、保護者への啓発を進めていく。</p> <p>(3) 生徒指導 ○事象が発生した場合には、必ず部会で方向性を明らかにしながら、学校全体で統一した指導ができた。</p> <p>●SNSの利用状況を把握する手立てを考え、指導に関する研修を実施する必要がある。</p> <p>(4) 健康安全教育 ○年間計画に沿い健康・安全教育が推進できた。</p> <p>●学校保健委員会に全職員が出席し、研修を兼ねた構成で実施する。</p> <p>(5) 特色ある学校づくり ●学校と地域が目標やビジョンを共有し、地域住民の参画による多様な活動を持続的に実施できる基盤づくりに努める。</p>	<p>(1) 学力の充実・向上を図る指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のメリットを最大限に活かし、デメリットを克服する。</li> <li>・1時間の授業を大切に作る。（京丹波町メソッドに基づいた授業展開）</li> <li>・国語科を重点教科とした授業研究の充実</li> <li>・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の充実を図る。</li> <li>・教科横断的な学習の充実</li> <li>・ICTを活用した指導と研修の充実</li> <li>・キャリアパスポートの実践と充実</li> </ul> <p>(2) 児童の自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が担任の意識で児童に接し、誉める指導の徹底</li> <li>・人権教育や特別の教科道徳の指導の充実</li> <li>・コミュニケーション能力や表現力を高める指導の充実</li> </ul> <p>(3) 学校と地域の連携協働による児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CS準備委員会の設立と運営</li> <li>・熟議によるめざす児童像等の共有</li> <li>・日常的な双方向性の協働</li> </ul> <p>(4) 教職員の働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー残業デー実施と教材研究日の定例化</li> <li>・家庭・地域との連携（見守り活動等）</li> </ul>	自己	学校関係者
			B	B

評価項目	重点目標	具体的方策	評価			成果と改善点		
			自己		学校関係者	自己評価	学校関係者評価	
			中間	年度末				
教育課程	・知・徳・体のバランスのとれた力である「生きる力」が身に付くように教育課程を編成し、計画的に実施する。	<p>①指導目標・指導計画・授業時数等の教育課程を適切に編成して実施し、質の高い学力の育成に努める。</p> <p>②学力調査等で学力・学習状況を的確に把握し、授業改善や学力向上に生かすとともに、主体的に学習に取り組ませる。</p>	B	B	B	B	・コロナの影響で大幅な変更があったが、教務主任中心に臨機応変な対応ができた。	
学習指導	・「学びを育む京丹波町メソッド」を活用して、教育諸計画の充実と組織的な基礎学力の充実・学習意欲の向上を図る取組を推進して、質の高い学力を育成する。	<p>①「学びを育む京丹波町メソッド」を反映した本校独自の学力向上システムをもとに、「めあて」から「振り返り」までの一貫した指導を徹底し、組織的・計画的に児童の学力向上を図る。</p> <p>②家庭との連携を図り、家庭学習習慣の確立と定着を図る。</p> <p>③全学級が授業公開（国語科）を行い、授業研究会の充実と指導力の向上を図る。</p>	B	B				
		B	B					

		④タブレット端末等の教育系システム機器を積極的に活用し、ICT教育の推進を図る。	B	B			成して計画的な家庭学習に取り組ませた。	
		⑤朝読書や学級ごとの読書指導、全校での指導を通して、学力の基礎となる「ことばの力」を育む。	B	B				
人権教育	・自己を尊重し他者を尊重する態度や実践力を培う人権教育を推進する。	①人権教育年間指導計画に基づいた計画的な指導を通して、児童の人権認識を高め、豊かな人権感覚と人権尊重の態度を育成する。	B	B	B	B	・コロナの影響で人権月間の取組は12月のみとなったが、児童につけたい力を明確にした指導ができた。	
		②計画的に研修会を実施して指導者としての人権認識を高め、児童一人ひとりの学力・進路保障に努める。	B	A				
		③学校だよりや学級だより等で人権教育の取組内容を伝え、保護者や地域への啓発を図る。	B	B				
特別支援教育	・個々の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行う特別支援教育を推進する。 ・通常の学級に在籍する特別に支援の必要な児童に対する指導方法の工夫改善を行う。 ・障害のある人に対する理解教育を教育活動全体に位置付け、計画的・継続的に推進するとともに、保護者や地域住民の理解と認識を深めるための啓発に努める。	①特別支援学級在籍児童の実態を的確に把握し、指導方法の工夫改善を行い、自立や社会参加に向けての基礎を培う。	A	A	B	A	・節目毎に児童理解と発達について学ぶ研修を実施し、日常指導や支援に活かした。 ・コーディネーターを中心に校内支援委員会を定期開催し、適正就学に結びつけることができた。	・参観の際に、子どもに合わせた適切な指導をしていたことが見られた。
		②児童個々の教育的ニーズに対応した切れ目のない学習支援を進める。	B	B				
		③各学年の発達段階に応じた理解教育を推進する。	B	B				
		④交流教育や理解教育の実践を学校だよりや学級だより等で伝え、保護者や地域住民への啓発を図る。	B	B				
		⑤教育支援委員会等町内関係諸機関との連携を強化し、必要に応じた教育を推進する。	A	A				
道徳教育	・1時間ごとの道徳の時間を大切に「特別な教科 道徳」の実践を積み上げ、豊かな人間性を育むとともに道徳的実践力を高める。	①道徳教科書をもとに「道徳教育の進め方 京都式ハンドブック」等を活用して、心に響く道徳教育を推進する。	B	B	B	B	・児童実態に合わせた教材の見直しを進め、考え議論する道徳の実践を図っていく。	
		②道徳的判断力・心情・実践意欲と態度などの道徳性を養う授業を推進する。	B	B				
生徒指導	・生徒指導の3機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定)を生かした積極的な指導を進め、好ましい人間関係・たくましい児童の育成を図る。	①いじめ調査や実態交流によって児童の状況を把握し、日常指導に生かすとともに、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。	B	B	B	B	・コロナの影響で異年齢集団活動は制限されたが、生徒指導主任を中心に会議を開催して共通確認のもとで指導にあたった。	
		②学校や家庭での実態について把握するとともに、あいさつの励行等基本的生活習慣と生活規律の確立を図る。	B	B				
		③小規模校のよさを生かした異年齢集団活動を効果的に実施し、学校生活の充実・向上を図る実践的態度を育てる。	B	B				
特別活動	・望ましい集団活動を通して、自主的で実践的な態度を育成し、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。	①学級活動や児童会活動を通して、集団の一員として協力して問題を解決しようとする態度を育成する。	B	B	B	B	・コロナの影響で行事や活動は制限されたが、学級の係活動などは主体的に取り組む姿が見られた。	・中学校においても大人数の場で発言できる子どもにも育ってほしい。
		②クラブ活動を通して、自発的に活動し、よりよいクラブづくりに参画しようとする態度を育成する。	B	B				
		③学校行事や児童会行事等を通して、協力してよりよい学校生活を築く。	B	B				

保健管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の生活実態を把握し、家庭と連携した保健管理を進める。</li> <li>・食の宝庫としての特色を生かし、食育を推進する。</li> </ul>	①児童の発達段階に応じた保健指導を定期的実施し、児童の健康意識の向上を図る。	B	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学校生活の決まりを確立し、感染症拡大防止に取り組めた。</li> <li>・体力向上の取組は中止したので、次年度は方法を工夫して取り組ませる。</li> </ul>	
		②保健だよりの発行や生活実態調査を通して家庭と連携し、個に応じた健康管理を進める。	A	A				
		③定期的に食育指導を実施し、食に関する興味や関心を高めるとともに望ましい食習慣を育成する。	B	B				
		④体育学習を中心にした工夫ある取組により、運動能力や体力の向上を図る。	B	B				
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心・安全な教育環境づくりを推進する。</li> </ul>	①安全計画・危機管理マニュアルに基づいて、児童の安全確保を図る。	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災や地震等を想定した避難訓練を実施できた。</li> <li>・南丹警察署と連携し、1学期末に防犯教室が実施できた。</li> </ul>	
		②児童の安全意識や危機回避能力を高める。	B	B				
		③保護者や地域住民と連携して、具体的な防犯対策に取り組む。	B	B				
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に開かれた教育課程のもと、地域に根ざした教育活動の推進を積極的に行う。</li> </ul>	①学校公開を積極的に行い、学校教育に対する保護者や地域住民の理解と関心を高める。	C	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で地域との連携事業はほとんど中止したため、児童に豊かな体験活動をさせることはできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの中で連携は仕方なかったが来年は工夫してほしい。</li> </ul>
		②学校ホームページや学校だより等で情報発信を積極的に行い、保護者や地域住民の学校教育に対する理解を高める。	A	A				
		③PTAや地域団体等と連携・協働し、社会総がかりで子ども達を育成する取組を推進する。	B	B				
研修・研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公教育に課せられた使命と責任を自覚し、教職員の実践的指導力の向上を図る。</li> </ul>	①人事評価の活用等を通して資質能力の向上に努め、計画的・継続的な教育実践に取り組む。	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修と併せて全学級で国語科の授業研究会が実施できた。</li> <li>・人権教育に関する研修会も実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業を取り組んでほしい。</li> </ul>
		②積極的・主体的に研修会に参加し、その成果を校内伝達を行うなどして校内研修に生かす。	B	B				
		③年間研修計画に基づいた研修・研究を行い、授業実践力や専門性を基盤とした実践的指導力を高める。	B	B				